

はじめに

本書は國學院大學日本文化研究所のプロジェクトと「宗教と社会」学会・宗教意識調査プロジェクトの合同により、1995年度から2015年度まで12回にわたって実施された学生宗教意識調査の結果を比較し分析したものである。12回の調査各回の結果は、昨年度刊行された國學院大學日本文化研究所編『学生宗教意識調査総合報告書（1995年度～2015年度）』にまとめられているので、本書では20年にわたる調査で得られたデータを全体的に比較考察し、さらにいくつかの視点からのクロス集計も行うなどして、多角的な分析を試みた。

この調査の質問項目には毎回ほぼ同じ内容のものと、回ごとに少しずつ変えたものがある。ほぼ同じ質問内容としたのは、次のようなものである。回答者の性別、学年、所属する学校名、住居の形態（親と同居か一人住まいかなど）、卒業した高校が宗教系かそうでないか、宗教への関心度合、家の宗教があるかないか、両親が信仰をもっているかどうか、神棚・仏壇などが実家にあるかどうか、初詣、墓参りをしたかどうか、などである。他方、宗教に関わる意見、宗教教育への関心や知識、葬儀形態への意識、サブカルチャーへの関心、ジェンダー問題への関心、オウム真理教問題やイスラム教に関する知識や意識などについては、少しずつ質問内容を変えた。これらは数度にわたって質問したのもあれば、一度しか聞けなかったものもある。

本書の分析の視点は大きく3つが設けられている。経年変化の分析とクロス集計による傾向の析出、及び自由記述に見られる傾向の分析である。さらに1999年、2000年、2005年、2007年の4回にわたって、規模はやや小さいのであるが韓国でもほぼ同様の調査を実施したので、日韓の学生の宗教意識の比較も行なう。日韓比較も調査ごとに行なってきたのだが、4回を通して見られる傾向を分析した。

経年変化は全12回の調査だけでなく、それに満たない数回の調査における変化も扱っている。クロス集計では信仰をもつ学生とそうでない学生とに見られる宗教観の違いなどの比較や、宗教系の高校を卒業した者と非宗教系の高校を卒業した者との比較、性別による比較、学年別の比較などである。また自由記述の分析は、総合報告書では割愛した部分であり、調査ごとに刊行された12冊の報告書でもごく一部が紹介されただけであるので、なるべく多くの記述を問題ごとに掲載した。

全体を通しての傾向や特徴についての分析は冒頭の論文で行なった。末尾にはこの調査結果を用いた研究文献の一覧を付した。なお、12回の調査の概要（質問票、調査対象校、調査分担者・協力者等）については総合報告書に記しておいたので、そちらを参照していただきたい。

2018年1月

編集責任者 井上順孝

目次

はじめに

井上順孝「学生の宗教意識は20年間でどう変わったか ——グローバル化と情報化が進行する時代に観察されたこと——」	1
---	---

調査の概要

① 回答者数	43
② 調査実施校数	43
③ 在学している学校の宗教系・非宗教系の別	43
④ 卒業した高校の宗教系・非宗教系の別	43
⑤ 回答者の性別	43
⑥ 回答者の学年	44

[I] 第1回～12回調査結果の経年比較

第1章 学生の宗教意識の経年変化

a) 信仰の有無	45
b) 宗教に対する関心	46
c) 神仏霊魂を信じるか	
① 神の存在	53
② 仏の存在	55
③ 霊魂の存在	57
④ 先祖は自分たちを見守ってくれている	59
⑤ 死後の世界の存在	61

第2章 家庭の宗教環境

a) 家の宗教	63
b) 両親の信仰	65
c) 神棚・仏壇等	67

第3章 宗教習俗との関わり

a) 初詣	70
b) 墓参り	71
c) クリスマスと節分	
① クリスマス	73
② 節分	74
d) 葬儀について	
① 自分が希望する葬法	75
② 親が散骨・自然葬を望んだ場合	77

③ 自分は散骨・自然葬を望むか	78
e) 信仰と宗教的習俗	
① 非クリスチャンのキリスト教会での結婚式	79
② 無信仰者が葬式のときだけ僧侶をよぶこと	80
第4章 宗教や宗教家への意見	
a) 相談したい宗教家	82
b) 宗教者に求めるもの	84
c) 宗教は人間に必要と思うか	87
d) 宗教を信じると、心のよりどころができるか	89
e) 「宗教はアブナイ」というイメージがあるか	91
第5章 宗教関連の社会問題	
a) 宗教の勧誘について	
① 勧誘を受けた経験	93
② 勧誘を受けた宗教	93
③ 勧誘を受けた時期	94
④ 勧誘を受けた場所	95
⑤ 勧誘を受けたときの対応	96
b) 街頭での布教の制限	97
c) カルト問題	99
d) 公的な相談窓口の設置の必要性	102
e) ジェンダー問題	
① 役職や地位での差別	104
② 聖地などへの女人禁制	106
③ 同性愛の禁止	109
f) 宗教と政治	111
g) 宗教施設への課税	112
第6章 オウム真理教問題	
a) オウム真理教についての報道	114
b) 関心の内容	115
c) オウム真理教についての知識	116
第7章 イスラム教関連	
a) イスラム教徒との関わり	118
b) イスラム教への関心	119
c) モスクの設立について	120
第8章 宗教教育関連	
a) 宗教教育の必要性	121
b) 宗教文化教育への意見	122

第9章 サブカルチャー、その他

a) 占いへの関心や信頼度	
① 手相	124
② 姓名判断	125
③ 血液型による性格判断	125
④ 星占い	126
⑤ コンピュータ占い	127
b) ノストラダムスによる終末予言への関心	128
c) 超常現象への関心	
① 宜保愛子の霊視	129
② 臨死体験	130
③ 前世・生まれ変わり	131
④ 死後の世界の存在	132
⑤ オーラの存在	133
⑥ テレパシーの存在	134
d) パワースポット	135

第10章 友人の信仰

a) 信仰をもつ友人がいるか	137
b) 信仰をもつ友人に対する態度	138

第11章 情報化への対応

a) 1990年代末の情報ツールの変化	140
b) インターネット上の宗教関連情報への関心	141

[II] クロス集計

第12章 宗教への関心の度合いとの相関

a) 宗教に関する意見	
① 宗教の必要性に関する意見	143
② 宗教は心のよりどころになるかどうかについての意見	145
③ 宗教はアブナイと思うか	147
b) 神仏、霊魂の存在	
① 神の存在	148
② 仏の存在	150
③ 霊魂の存在	151
c) イスラム教への関心・意識	
① イスラム教への関心	152
② 近所のモスクへの意識	153
d) 宗教教育の必要性	154
e) パワースポット	156

第13章 両親の信仰の有無との相関

a) 宗教への関心	157
b) 宗教は人間に必要と思うか	161
c) 宗教はアブナイと思うか	164

第14章 性別との相関

a) 星占い	166
b) 手相	168
c) 姓名判断	169
d) コンピュータ占い	170
e) 血液型による性格判断	170

第15章 卒業した高校の宗教系・非宗教系の別との相関

a) 宗教への関心	172
b) 宗教は人間に必要	174
c) 霊魂の存在	176
d) 墓参り	178
e) 占いの経験	178

第16章 学年別との相関

a) 宗教の勧誘の経験	180
b) 宗教は人間に必要か	181
c) 宗教はアブナイと思うか	184
d) 高校までの宗教教育をどう思うか	187
e) 霊魂の存在	189

[Ⅲ] 自由記述に示された意見

第17章 信仰・宗教に関わる問題

a) 宗教及び関連事象への関心内容	193
b) 友人の信仰に関して	196
c) スピリチュアリティについて	197
d) 東日本大震災の心理的影響	199
e) 霊魂のイメージ	200

第18章 宗教の社会的問題

a) 見知らぬ人からの勧誘に対して	202
b) 宗教者の社会的役割	202

第19章 脳死状態での臓器移植問題	205
-------------------	-----

第 20 章 靖国問題	
a) 日本での調査	208
b) 韓国での調査	209
第 21 章 オウム真理教問題	
a) 入信していた人たちについて	211
b) オウム報道について	213
第 22 章 イスラム問題	215
[IV] 日韓比較	
第 23 章 宗教意識の比較	
a) 信仰をもつ割合	218
b) 神仏や靈魂の存在を信じる割合	
①神の存在	219
②仏の存在	219
③靈魂の存在	219
c) 死後の世界	220
第 24 章 家庭の宗教環境	
a) 両親の信仰	221
第 25 章 宗教習俗への関わり	
a) 墓参り	222
b) 信仰と宗教習俗との関係	222
第 26 章 宗教や宗教家への意見	
a) 相談したい宗教家	223
b) どんなに科学が発達しても宗教は必要	223
c) 宗教はアブナイと思うか	224
第 27 章 宗教関連の社会問題	
a) 宗教の勧誘	225
b) 愛国心	225
c) 靖国問題	
①対立があること認識	226
②首相参拝への意見	226
d) 脳死と臓器提供	227
e) ジェンダー問題	228

第 28 章 オウム真理教について	229
第 29 章 イスラム問題	
a) イスラム教への関心	230
b) 「9.11」後のイスラム教のイメージ	230
第 30 章 宗教教育に関すること	
a) 宗教教育の必要性	231
第 31 章 サブカルチャー、その他	
a) 占いへの関心	
① 手相	233
② 血液型による性格判断	234
③ 姓名判断	234
④ 風水	235
b) 超常現象などへの関心	
① テレパシー	235
② 前世・生まれ変わり	236
c) ウェブ上の宗教情報への関心	236
本調査を参照している研究文献一覧	238

あとがき

凡例

1. パーセンテージは小数点第2位を四捨五入した数値である。
2. 調査対象とした大学、専門学校等のうち宗教系の学校は「宗教系」、国公立や宗教と関係のない学校は「非宗教系」と表記する。
3. 回答者が卒業した高校のうち、宗教系の高校は「宗教系高校」、非宗教系の高校は「非宗教系高校」と表記する。
4. 宗教系かどうかの判断に当っては、國學院大學日本文化研究所編『宗教教育資料集』（すずき出版、1993年）、公益財団法人国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンターのホームページ（下記）に掲載の「宗教系学校リンク集」、及び各学校のホームページを参考にした。

URL: <http://www.rirc.or.jp>

5. 男子学生、女子学生はそれぞれ男性、女性と表記する。
6. 各グラフについて若干の説明を加えた方が分かりやすいと思われた場合は、*をつけてコメントを付した。
7. 宗教別のうち「新宗教」に含める教団は、井上順孝・孝本貢・対馬路人・中牧弘允・西山茂編『新宗教教団・人物事典』（弘文堂、1996年）に記載された教団を基準とした。